

LD・ADHD 通級学級を 3 年間担当した時は、日々毎時間のように LD・ADHD という症状と向き合ってきました。

LD については医師の LD 診断や専門家の LD 疑いという状態の他に、LD を心配する体験通級や相談も合わせると 20 人以上の LD 症状と向き合ってきました。ASD や ADHD 等の症状を伴う場合もありますが、ここでは LD だけの診断や疑いの状態に触れてみます。

LD は知的障がいが見られず、日常生活に支障ない症状なので、面談だけでは症状が判別できませんでした。診断は、読字・書字検査に基づいて行われ、他に算数障がいという状態も診断されています。文字の読み書きに関する国語教科のスコアを見てください。

LD の明確な境界線が引かれて、診断された人だけが飛びぬけて突出しているわけでもありません。高次脳機能のスコアで見てみましょう。特に空間認識や情報処理が低めに出ているようです。空間認識と情報処理が低いと読み書き LD が表出するわけではありませんでした。

LD の範疇外ですが（方向音痴）という症状が見られた場合もありました。スコアでは注意力も落ちているようです。相談した生徒の中には音痴といわれる音階認識障がいの状態もありました。

人は能力に長短があるので、読み書き障がい、算数障がい、の他にも方向音痴や音痴、運動音痴と苦手とするものがあるようです。

各々学習の習得に影響がありました。方向音痴は位置を認識できず、社会科地理の地図が出てくると理解が難しいです。

しかし社会科の地理の一部に影響する他は学習に影響が少ないです。

また音痴の状態は音楽の歌唱などの学習に影響が出ますが、他の学習に影響が少ないです。

読み書き障がいと算数障がいについては、他が苦手

LD・ADHD通級学級を3年間担当

LD=知的障がいが見られず
日常生活に支障がない

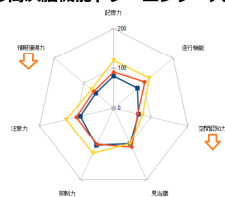
LDの苦手な分野

読字障害（ディスレクシア）…読むことが苦手
書字表出障害（ディスグラフィア）…書くことが苦手
読み書き両方「読み書き障害」「発達性ディスレクシア」
算数障害（ディスカリキュリア）…算数・計算が苦手

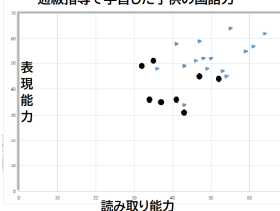
LD以外

方向音痴（位置認識障がい） 地理・地図分野苦手
音痴（音階認識障がい） 音楽の歌唱と苦手
運動音痴 体育が苦手

LDの高次脳機能トレーニング スコア



通級指導で学習した子供の国語力



LDではない
LD診断 LD疑い
明確なボーダーがあるわけではない
苦手部分が学習に影響する場合が多い



人類誕生200万年前～200年前まで

位置認識障がい（方向音痴）
運動能力（運動音痴）が深刻

ここ百年ほど～

読み書き障がい・算数障がい
学習習得のためには深刻な課題に・・・

LDの概念

LDもADHDも時代から生まれた？

バランスよく指導→成長に

人の時代の変化が生んだ診断かもしれません。苦手部分はバランスよく指導して成長につなげたほうが良いでしょう。

支援が必要な子供の能力 (イメージ)

得意・苦手 (長短) がある

他の子供 (比較イメージ) も長短があり 項目により上りのものもある

平均すると低かったり

文字の読み書きや数的理解などが短所だと 思考や学習に大きな負担になる場合がある

両方なれど「よーい」は方向性図、数直線、で例に影響がないものの例がある 長所を強調するためには負動条件がある場合も活用が望ましい